

一緒に
つくろう、
子どもの
未来！



一緒に
つくる
う、
子ども
の未来
！

気づきの場がある。

京都造形芸術大学には地域に根ざした児童図書館「ピッコリー」、教育実践の場としての付置機関「こども芸術大学」があります。絵本の課題では、子ども達との遊びや読み語り、お母さん達を交えた振り返りをとおして、子どもの目線にたった制作が可能です。

芸術で生き方を探す。

芸術は美術館で鑑賞するような作品を指すだけではありません。それは、何気ない日常に美を発見し、目の前の課題に対して柔軟に発想し、より善いあり方を模索するための方法です。芸術力を鍛えることで、自己実現や、コミュニケーションのあり方を探ります。

保育者になる。

子どもをめぐる様々な現状と課題を知り、社会全体で子どもを支えるための学びを深めます。芸術大学でありながら、しっかりと教育原理、保育原理、発達心理学、児童福祉などの理論を学び、現場での実習（インターンシップ）と合わせ保育のプロを目指します。

自分の想いや夢を具体的なカタチにするために、私たちが考えたこと。

そして今、子ども芸術学科の学生や卒業生が制作した作品や活動によって、「こども芸術」の具体的なカタチが見え始めています。現在社会で活躍する5人の卒業生が、芸術大学で保育や表現をしっかりと学んで取り組んだ卒業研究・制作と、そのきっかけやプロセスを語ってくれました。

井上亜美

東京藝術大学大学院
映像研究科修士課程 1 年次生

関戸 望

神奈川県立保土ヶ谷養護学校
教諭

東郷 萌

社会福祉法人唐崎福祉会
松の実保育園 保育士

末次知穂

社会福祉法人宇治福祉園
三室戸保育所 保育士

濱田知尋

社会福祉法人慶照学園
けいしょう保育園 保育士

子どもの未来を創造するために、 芸術大学で学ぶ。

人は誰しも、何かをするためのエネルギーを持っています。そして、自分のためだけでなく、誰かの役に立つとき、それは何倍もの原動力になります。それが子どもたちの笑顔につながっているとしたら…

子どもをとおして自己と他者、社会との関係を学び、人に優しい視点を持つことが、これからの社会に必要とされています。「あそび」のなかで子どもの豊かな発想や工夫する力を育み、個々の多様な表現を理解し支える人になるためには、芸術による知恵と技術が大いに役立つのです。



井上 亜美

こども芸術学科 2013年度卒業生
東京藝術大学大学院 映像研究科修士課程 1年次生



卒業制作作品 『いのちの在り処』

蝉の抜け殻に触れたとき、手に汗が滲んだ。まだ何かが宿っている気がした。その感覚を再現したいと思い、身近な虫をモチーフに抜け殻を制作した。抜け殻に透きとおる、たくさんの光や色。そんな些細な動きを見つめてほしい。



- 1 | 1年次作品 100円ショップのものを分解して制作した生きもの。
- 2 | 2年次作品 キャンパスの切れ端でトイレを博物館に。
- 3 | 3年次作品 透明や白の日用品から制作した生きもの。

あたらしい素材との出会い

2年次の前期に、100円ショップのものを分解し、新しいものにつくり変えるという課題がありました。100円ショップの品物はつくりが複雑でなく、キリやペンチで簡単に分解できるのが楽しかったので、課題が終わってからも100円ショップの商品を買い集めていました。目的を定めずに素材から受けたインスピレーションで架空の生物をつくったのが「いきもの」シリーズです。

また、2年次の後期にはキャンパスの切れ端を自由に用いて環境に関わるという課題がありました。私はキャンパスの切れ端が骨に見えたことをきっかけに、絶滅した海の生物の骨をつくり、大学のトイレに博物館のような空間をつくり出しました。そのようにしてさまざまな素材を使用するうちに、だんだんと白くて透明な素材に惹かれるようになり、二つ目の「いきもの」シリーズを制作しました。

真つ白な綿棒に瞬間接着剤を浸透させると透明になることや、洗顔ネットをライターであぶると縮んで固まること。見慣れた素材が目前で変化していく面白さを、自分の指をとおして感じていました。

いのちとの関わりから

身近な素材を分解し、再構成して生物を制作する方法を続けていたとき、先生からの「素材を見せたいのか、生物のかたちを見せたいのか、どっちなん？」という言葉をきっかけにして、自分が何を伝えたいのかを考える

ようになりました。

そんな時に、夕日に照らされた蝉の抜け殻をみつけたとき、生命力を強く感じました。その体験をきっかけに制作したのが卒業制作の「いのちの在り処」です。虫の死骸を分解して型を取り、寒天を流し込み、接着剤を垂らして抜け殻をつくり出す過程は、私にとっていのちと向き合う時間だったように思います。

素材との出会いのみで完結していたものづくりが、いつの間にか外の世界に触れることによって作品をつくるようになり、自分の感覚を伝えたいと思うようになりました。

感覚を伝えるために

卒業制作を終えても、なぜ自分が虫の死骸や抜け殻に惹かれ、いのちが宿っていると感じたのかについて考えています。また、そのことを伝えるために試すべき方法がたくさんあると感じています。進学先の大学院では、映像や写真、音などのさまざまなメディアをとおして実験を繰り返しながら、自分の伝えたいことをより直接的に伝えられる方法を探していきたいと思っています。

芸術に関わる時、技法や歴史を学ぶこともとても大切だと思います。しかし、こども芸術学科での4年間は、自分が今どんな世界に生きているのか、何を感じて何を伝えようとしているのかというような、表現の根元の部分を耕す時間であったように思います。今生きている自分自身に向き合えた経験が、これから先も自分を支えてくれるのだと思います。



関戸 望

こども芸術学科 2013年度卒業生
神奈川県立保土ヶ谷養護学校 教諭

心の距離が近い関わり

こども芸術学科では自分以外の人や物との距離が近く、お互いが関わりあう機会が多くありました。気さくに話しかけてくれる先生や友達、楽しんで行える授業など素晴らしい時間を過ごせたと思います。

しかし、人と上手く接することが苦手だった僕は、近すぎる距離感に居心地の悪さを感じてしまうことがありました。誰にも言えず一人で思い悩み、退学届を研究室に持って行ったこともあります。不器用で一方的な意見をぶつける僕に対して、先生方はそれぞれのやり方で僕のありのままを受け止めてくださいました。そんな人間性に触れて初めて人間関係の温かさ、こども芸術学科の懐の深さを感じました。

振り返ってみると自分が成長できたきっかけは、この環境があったからです。今では距離が近い関係の中で過ごした日々が、何にも代えがたい大切な経験となっています。

自分なりの「芸術」というかたち

僕はこの学科で「人と人との間に平和をつくりだすこと」が芸術である」という大きな学びを得ました。

はじめ「芸術」とは理解できない絵を描くことや、難しいコンセプトをつけた立体物のことだと思っていました。しかし、施設実習や保育実習をとおして、また普段の生活の中で多くの人と関わりを持つことで自分の内側を見つめ、自分自身の弱さや甘さと何度も向き合いました。そして人と思いを共有した時にはぶつかり合いながら、



卒業制作作品「こもれび」

ただ、そこに在るだけ、という素直で純粋な錆びに惹かれた。僕の視線は平和に生きていくこと。この作品は、全ての第一歩なのだ。

理解し合う喜びと平和な関係の素晴らしさを感じました。そのような経験が僕に「芸術」という言葉の意識を変えさせ、自分なりの芸術を発見させてくれたのです。「芸術」とは、絵を描くことや立体物をつくることだけではありません。その先にある、人を笑顔にすることや、幸せ、安心感、素直さを教えてくれることなど、人との関係に平和をつくりだす行動や現象の全てを言うのだと体験を以って学ぶことができました。

幸せになるという夢

僕は「幸せになる」という大きな夢を持っています。幸せの定義は人それぞれです。正直なところ僕にとっても何が「幸せ」なのかは、まだ正確に言葉に出来ません。しかし、こども芸術学科で学んだ、人との関係に平和をつくりだす芸術が僕の考える「幸せ」を運んでくれるのではないかと感じています。

これからも多くの出会いがあり、色々なことを経験し、たくさん失敗します。その都度、新たな自分とも出会い、大学4年間の学びを実践しながら「幸せになる」という夢に向かって、ゆるやかに生きていきたいと思っています。



1 | 1年次作品 人がつくった木が持つ自然の力との対比が面白くて描いた風景油彩画。



2 | 2年次作品 錆びたものに心を惹きつけられて、拾ってきた看板に描いた。



3 | 3年次作品 目標(光)に向かって、ゆっくりと動きだすカタツムリに自分を重ねたプレスコ画。

向き合うこと

東郷 萌

こども芸術学科 2013年度卒業生
社会福祉法人唐崎福祉会 松の実保育園 保育士



卒業制作作品『おはなしの地図』

大きくくりで捉えるのではなく、一人ひとり違う個人をみることで、それらが集まって全体になっていること。100通りの声とお話が生まれます。



- 1 | 2年次作品 カタチ合わせの知育玩具。
- 2 | 3年次作品 常滑市に滞在し、町を写真やフロッターージュなどで切り取りコラージュで表現。
- 3 | 3年次作品 子ども向けの新品を開発するココヨ(株)との産学連携プロジェクトで「なにこれマット」の提案。

関わることは成長すること

こども芸術学科の授業は周りの人とグループになったり、ディスカッションをしてコミュニケーションを取りながら活動することが多かったように思います。クラスメイトと楽しみながら受けるそんな授業が好きでした。

特に3年次になってゼミに入ると、子どもや障がい者の方や社会の大人など幅広い年齢の人と関わるが多くなりました。大学附置機関のこども芸術大学に通う子どもや保護者の方、障がい者授産施設の方、INAXライプミュージアムで働く人やホームステイさせて頂いた陶芸家の方：など挙げていくと切りがないくらい多くの出会いがありました。人と関わりと発見や喜びやもどかしさなど自分ひとりでは感じられないことが多く、それは何かしらの刺激になって自分の中に吸収されていくのがわかり、そうして私は成長してきたように思います。

みんながって、みんないい！

人と関わっていると時折、自分と考えが違うと思う場面に遭遇することもあります。しかしそれぞれ違うこととは当たり前で、一人ひとり違うことで面白いものが見えたり新しいことに挑戦できたりするのです。

3年次に初めて障がい者の方とじっくり関わることで、今まで「障がい者」という言葉のくりくりでしか見られていなかった自分に気づきました。実際に関わって個人のことを見ると個性が光っていて「なんて面白いん

や！」と素直に感激したことを覚えています。相手のことを「子ども」「女子大生」などの小さくくりで見るとはではなく一歩中に入った見方ができれば偏見や先入観などの問題がなくなるのではないのでしょうか。

また株式会社ココヨとの産学共同プロジェクトでつくったものを子どもたちに遊んでもらったときには、私を感じた触感と、そこから子どもたちがイメージするのは違っていました。みんな同じものを触っているのにイメージするものがそれぞれ違って面白く感じていることを改めて感じました。

こうして、私はたくさんの人と出会ううちに「個と向き合う」ことを大事にしていこうと思うようになりました。

私のこれから

この4年間の学びから私は子ども一人ひとりに寄り添い感性や個性を伸ばすことができる保育士になりたいと思っています。個人と向き合うことで良いところをしっかりと伸ばせるように、豊かな感性を育てていきたいです。また大学で様々な人や場で活動し、その場の状況に応じて対応することや反省、そして気づきなどを次に繋げる大切さを実践の中で学んできました。

これからも試行錯誤しながらも子どもだけでなく自分も成長できるような保育をしていこうと思います。



末次知穂

こども芸術学科 2013年度卒業生
社会福祉法人宇治福祉園 三室戸保育所 保育士

子ども心をくすぐられる学科

私がこの学科を選んだのは、保育士を養成する一般的な学科よりも面白いことを学ぶことができると思ったからです。実際に授業を受けて、子どもの時にこういうことをしたかったな、と何度も思いました(笑)。ひたすら水に絵の具を溶かしたり、架空の雑誌を作ったり、キャンパスの切れ端を使って作品づくりをするなど、五感を刺激されるようなものも多く、その経験は、子ども心というものがどういふものなのか、を思い出させてくれました。

アートと人との仲介役

私にとってアートとは、黙々とキャンパスに向かって絵を描いたり、物をつくったりすることのみを指すとは思っていませんでした。そのように思い込んでいた頃は、私にしかつくれない作品ができずに悩みました。その答えを見つけたのは、3年次のゼミで行ったワークショップの中でした。子どもたちと段ボールで秘密基地をつくったり、障がいをもつ方々と絵を描いたり、美容院で髪の毛をカットできない子どもたちがいることを知ってもらうためにヒーローをつくったりしました。たくさんの人たちとアートを通じて出会い、アートは自分ができるだけではなく、それによって人と人を繋ぐことができることを知りました。私が大学でたくさんの人と出会い、繋がることのできたのもアートが仲介してくれたからこそだったのです。

将来の夢、ホスピタルクラウン

大学4年間で、私には夢ができました。ホスピタルクラウンになることです。クラウンは日本語では道化師という意味。ホスピタルは病院という意味でもあります。ホスピタリティ、おもてなしという意味でもあります。つまり「道化師のおもてなし」、これを行うのがホスピタルクラウンです。前から、病院に入院している子どもたちと関わりたいという思いがあり、その方法を探している中で出会いました。子どもたちが一瞬でも病気のことを忘れる時間をつくるために、「プル」という名前前にホスピタルクラウン見習いとして活動することになりました。大学生活で出会った方々に協力していただきながら、いろいろな場所で活動をしました。「プル」だったからこそ、楽しい時間を子どもたちやたくさんの方と共有することができました。現在は保育士として保育園で働いています。それでも「プル」として学んだことが活かされています。いつか保育士として培ったものを活かして、たくさんの人たちが一瞬でも何もかも忘れて笑顔になることのできる、ホスピタルクラウンになりたいと思っています。



卒業制作作品『ブル奮闘記～ホスピタルクラウンになるために』

入院している子どもたちのもとを訪れて、病気のことを忘れる一瞬を生み出すホスピタルクラウン。そんなホスピタルクラウンになるために日々奮闘している見習いクラウン、ブルの奮闘記。いろんな人が集まるところに出向き、笑顔を共有する空間づくりを目指している。



- 2年次活動 ホスピタルアートプロジェクトHAPii+の活動で、京都府立医科大学付属病院のPICU(小児集中治療室)の壁面に絵を施す。
- 3年次活動 美容院で整髪できない発達障害のある子どもたちの存在を知ってもらうことを目的に生まれた星髪戦士ピースマン。マスクやヒーローショーのシナリオの制作に関わり、児童館や幼稚園などで活動を行う。

こども芸術学科だからできること

濱田知尋

こども芸術学科 2013年度卒業生
社会福祉法人慶照学園 けいしょう保育園 保育士



「いろんな」人

高校生のときは毎日、答えのある勉強ばかりしていました。現代文、数学、日本史などなど。そのため物事には必ず「正しい答え」があるのだと思いついていました。大学に来てみると「正しい答え」なんて一つとは限らないことに気づかされました。特に、こども芸術学科ではそれを強く感じました。

こども芸術学科は私の入学した年が1年生から4年生まで揃った完成年という、とても新しい学科です。そのため、日本画や油画、デザインのように、はっきりとした技術や基礎がまだ確立されていませんでした。だからこそ、いろんな特技、特徴を持った同級生や先輩方が集まっていました。

もうすでに自分の絵が出来上がっている人。自分の好きなものがわかっていて、それについてとことん話のできる人。文章や声で表現する人。このような、いろんな人に出会うことで、考えを伝える手段は絵や立体だけではないことを知りました。

自分を考える

大学に来て、授業や人からたくさんの刺激を受けていた私ですが、自分のことを振り返ってみると、自分の特徴は何かを知らないことに気がつきました。周りには自分の魅力を知っている人もいるのに。

私は、初めて自分でテーマをみつける課題に取り組んでいる最中に、このことに気がつきました。「デッサン

だつて上手じゃないし、特に好きなこともない。私にできること、私のテーマって何やろう。」とネガティブな思考の中で縮こまっていました。

これ！というきっかけはありませんが、うじうじする私にずっと付いてアドバイスをくれた同級生のおかげで、ちょっとずつ前に進むことができました（何とか作品もできました！）。

いろんな特徴がある人がいるからこそ、他の人とは違う特徴があることがわかったのだと思います。

何から始めるか

私はこども芸術学科で、ゆっくりですが確実に人と自分を知りました。そして、自分の中に人と関わりたいという気持ちが強くあることを知りました。この気持ちをもち私が社会でどう役に立てるのか、まだわかりませんが、それを知っている私は人と関わりたいけど行動を起こすのが苦手だからこそ、改善策を見つけれられます。できること、考えていることなど、どんな些細なことも自分の特徴として、まずは自分のために何か行動しようと思えます。



卒業制作作品『部屋の隅』

他者と自分の間で感じる何かが目に見えたら、私は一歩他者に近づくことができる気がした。私の気持ちを納得させるためにつくった作品がだれかのためになればいいなあ、と思う。



1 | 1年次作品 風をモチーフにどうすれば風を感じられるか、風で描けるかを体で表現。



2 | 2年次作品 「これからは自分が世界をつくるんだよ」は、木に新しい枝が生えるのに近い、と感じて表現した。



3 | 3年自作品 自己と他者の間にある様々な形の膜のようなものを表現した。

受験生へのメッセージ

「自分にできることじゃなくて、自分にできそうな
ないことに挑戦してほしい」1年次ときの先生の言葉
です。4年間で数えきれない失敗をしましたが、未知
のことに取り組む瞬間はとても自由でした。何かに熱
中するなかで、新しいものが生まれると信じています。
(井上亜美)

人はなぜ生きるのでしょうか。こども芸術学科には、
その間に真正面から向き合う時間と環境がありま
す。考えなくても時間は過ぎていきますが、人生は一
度きりです。今、ここで自分の内側を真剣に見つめて
みませんか。
(関戸 望)

子どもが好き！芸術に興味がある！そんなきっかけで
自分の可能性は広がられます。大学は自分の夢を見つ
けてそれに近づいていく場所だと思います。ぜひ、こ
ども芸術学科の温かい空間の中で充実した学生生活を送
ってください。
(東郷 萌)

大学生活は自分で動けば、本当に充実した日々が過ご
せます。私自身も入学当初は楽しく勉強できて、保育
士資格が取得できればいいと思っていましたが、動け
ば動くほどいろんな人と出会い、刺激が得られ、世界
が広がります。アートと子ども、両方の分野とも本当
に面白いですよ。
(末次知穂)

こども芸術学科は芸術大学にありながら保育を学べる
学科です。保育士を養成するための学科ではない
と思います。受験生のみなさんのこれからの目標に深
さや幅をもたせるためにも、「芸術を軸とした保育」
という視点があるのだと思います、よ！ (濱田知尋)

僕がまだ学生の頃、影響を受けた作家がいました。フェル
トや脂肪を素材に彫刻を作ったり、ハチミツをポンプで循環
させながら学生と討論をしたり、コヨーテと対話したり：
ヨーゼフ・ボイスというドイツの芸術家です。

彼は従来の絵画や彫刻など、オブジェ的なものは表現の手
段ではあるが、芸術そのものではないと言います。芸術とは
「人や社会を変革すること(＝社会彫刻)」であり、さらに「(こ
れを実践する)全ての人は芸術家である」と定義していたよ
うに思います。僕は彼の考え方にとても共感したのです。

こども芸術学科の設立準備に関わったとき、僕は真っ先に
ボイスのことを思い出しました。誤解を恐れずに言うなら、
保育や教育、芸術の目的はいずれも、人(の意識)をよりよい
方向に変革するという点で、ボイスの考えと共通しているよ
うに思います。この学科の卒業生が社会で活躍し、一緒に子
どもの未来をつくることは、ボイスの定義した「社会彫刻」
に他ならないと考えています。

こども芸術学科

学科長 森本 玄

- 幼稚園教諭一種免許状
- 保育士資格
- 児童厚生一級指導員資格
- 社会福祉主事任用資格
- 学芸員資格



※ 2014 年 4 月 9 日撮影

卒業後の進路

保育・福祉関連

- しぜんの国保育園(東京都)
- 成瀬くりの家保育園(東京都)
- 生活クラブ風の村(千葉県)
- 御所幼稚園附属児童館(秋田県)
- クリエイティブサポートレッツ(静岡県)
- ねむの木学園(静岡県)
- かさまい保育園(石川県)
- 松の実保育園(滋賀県)
- 紫雲保育園(滋賀県)
- こだま保育園(滋賀県)
- 大津ひかり福祉会(滋賀県)
- 日本保育サービス株式会社(滋賀県)
- 社会福祉法人友愛(滋賀県)
- こども芸術大学(京都府・本学)
- 三室戸保育園(京都府)
- レイモンド向日保育園(京都府)
- 京都市上高野児童館(京都府)
- 京都市北白川児童館(京都府)
- 京都市西野児童館(京都府)
- 雑創の森(京都府)
- テンドーハウス(京都府)
- なづな学園(京都府)
- ふしみ学園(京都府)
- 青葉仁会(奈良県)
- ふたかみ福祉会(大阪府)
- ワークセンターとよなか(大阪府)
- 三田谷治療教育院(兵庫県)
- やまぼうし保育園(兵庫県)
- 夢工房(兵庫県)
- さざなみの森(広島県)
- けいしろう保育園(鳥根県)

一般企業

- 日本アスペクトコア
- くまざわ書店
- スタジオアリス
- イトキン
- 日本トイザらス
- ドゥニーム
- ワコール
- 星野リゾート
- ポーターランド
- 広貴堂
- ファイブフォックス
- がんこフードサービス
- オフィスシオン
- 日本eリモデル
- 京都機械工具株式会社
- ザグザグ

学芸員

- 財団法人岡谷市振興公社イルフ童画館
- 小さな絵本美術館

公務員

- 京都市役所・保育職
- 東大阪市立中学校美術科教員
- 神奈川県特別支援学校教員
- 日立市役所・行政職

進学

- 東京藝術大学大学院
- 京都造形芸術大学大学院



一緒につくろう、子どもの未来！

発行日 2014年4月20日
発行 京都造形芸術大学 こども芸術学科
〒606-8271 京都市左京区北白川瓜生山 2-116
Tel 075-791-9282 Fax 075-791-9224

編集 こども芸術学科研究室
デザイン 梅田美代子 にしもとひろこ
印刷・製本 泰和印刷株式会社